

# 林陽寺報 さくら

岐阜市岩田西 3-402 林陽寺 058-243-1380



ホームページ

## ご先祖様 年に一度のお里帰り 心つくしてのおもてなしを！

早いもので、お盆の季節になりました。コロナも終息。インフルエンザ並みの第五類となりました。久し振りに家族揃ってのお盆となるでしょう。懇ろに勤めましょう。当寺におきましても、八月七日のお盆の法要（施食会）に始まり、二十四日の地藏盆までいろいろな行事を勤めます。

日本人の多くは、ご先祖様は私たちの近くの山にいと昔から受け止められています。お盆が近づくとご先祖様を迎えるために「盆道」といって山からの道をきれいに掃除をしたり、「盆花市」といって、お盆にお供えする花の市が立ったり、普段あまりお詣りにいかないサンマエ（埋葬）の掃除にいったりと色々工夫をこらして楽しみながらお盆の準備をしました。

お釈迦様は「丁寧に供養すれば、その功德力により多くのご先祖や無縁の人たちも苦しみから救われ、今生きている我々も幸福を得るこ

とができるだろう」とお説きになられました。

写真は、お盆の時期の林陽寺の本堂の様子です。施食棚を出して供養をします。各ご家庭でも盆棚といつて机などに真菰（まこも）や布などを敷き、香炉やろうそく立てを置き、お仏壇からお位牌を移し、キュウリで馬をナスビで牛を作り、水向けの水や花、供物をお供えして準備をしましょう。棚経（たなぎょう）といって、お寺さんが来られましたら家族揃ってお詣りしましょう。



### 林陽寺の本寺である

#### 加納藩時代の全久院

慶長六年（1601）、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、加納に城を築き、自身の娘婿である奥平信昌を城主に迎え、加納藩を設置しました。その後、奥平氏が三代で断絶すると、大久保氏（1632～1639）、戸田（松平）氏（1639～1711）、安藤氏（1711～1756）、永井氏（1756～1871）によって治められ、明治維新を迎えました。

岐阜市歴史博物館で開催された加納藩の展覧会では、藩主や藩士、藩領の町人や村人たちについて取り上げ、譜代大名として江戸幕府を支えた加納藩二七〇年の歴史を辿った美濃国加納（現岐阜市）の小藩の展示でした。

奥平氏断絶後の寛永九年（1632）に武蔵国騎西（きさい）から大久保忠職が入部し、寛永十六年（1639）には、替わって播磨国明石から戸田氏が七万石で入封（にゅほう）しました。

戸田氏は家康の妹松姫を嫁にした家系で、徳川氏より松平氏の姓と葵の紋を与えられ、寛永十一年(1634)、明石藩主戸田康直

が死去したとき、跡継ぎが無く断絶のような状態であったが、兄の子戸田光重に相続が許され改易を逃れました。これは松姫による將軍家との姻戚関係のおかげだと、加納に入封した光重は、領地である桑山(本巢市)に智勝院を建立し、松姫を祀りました。寛文八年(1668)、光重の嫡男光永が相続するとき、二人の弟、光正に文殊(本巢市)、光賢に北方(北方町)とそれぞれ五千石を与え旗本としました。正徳元年(1711)戸田氏は山城国淀(よど)へ移され、備中国松山から安藤信友が六万五千石で入封しました。加納藩戸田氏は松姫のおかげで七十三年間治めることができました。

移封の度に伴われて移されてきました。戸田氏が加納に入封した時の加納全久院時代に末寺となった寺の一つです。

当時の住持である十三世了然玄超禪師の弟子である監窓宜公和尚が、寛文五年(1665)にこの鵜飼屋観音堂に来て、弘法大師の霊場が廃滅しているのを嘆き霊地を選定して一寺を再興し、旧寺号に倣(なら)い、八幡山林陽寺とし、師父の了然玄超禪師を開山第一世にすえ、曹洞宗寺院となりました。いまから三百五十年程前のお話です。

戸田光重公が加納に入封した寛永十六年(1639)全久院は加納に移りました。住持は十世鰲山雲外、十一世鉄心道印、十二世南針宗頓、十三世了然玄超、十四世天桂永澤、十五世丹嶺祖哀、十六世廊湛智亮、十七世天雪大英まです。

林陽寺は、戸田氏の香華院(菩提の弔う寺)であった三河国渥美郡橋上村(現豊橋市)に戸田憲光候により父宗光入道全久追福の寺として創建され、以後戸田氏の

加納時代に全久院末として確立した寺院は、圓成寺、林陽寺、洞泉寺、医王寺、全超寺、瑞巖寺、桃春院、金剛寺(美濃八ヶ寺門中)

であり、この時代の世代さんのご縁やその弟子達によって建立あるいは復興しました。

林陽寺の縁起によれば開山である了然玄超禪師は信州松本全久院十三世とあります。全久院は戸田氏の移封の度に伴われて転寺を重ね、信濃国松本の地にはまず六度日の移封の時に上野国高崎より元和三年(1617)に。後、寛永十年(1633)松本を離れ播磨国明石に移りました。再び松本に戻るのには享保十年(1725)、戸田光慈(みつちか)が志摩国鳥羽より入封されたときです。松本市本町春了寺跡に全久院が建立され、二十一世明極即証大和尚が再興開山となりました。その後法灯連綿と

して三十五世巨海意龍大和尚の時、大檀那である戸田光則候は、明治三年(1870)新政府への恭順を示す為に神式に改宗。激しい廃仏毀釈を行い、率先して菩提寺である同院を廃寺にしました。その後、明治三十一年小規模ながら「青龍山全久院」として再興さ



れました。

以前、松本の全久院をお尋ねしたとき、廃仏毀釈のため何も残っておりませんでした、よく分かりませんとのことでした。

「加納藩」の展示物に興味を抱いたのは、殿様の菩提寺である「全久院」がどこにあったのかに関心がありました。いわゆる城下町の図面である。探してみる。「加納城の城下町」という地図があり、大きな町ではなかったのができました。お城の北西方面に寺やお宮の境内がまとめられていました。現在の「光国寺」の西側に壕があり「天神様」、その西側に「久運寺」と続き城下町の西の隅に「全久院」はありました。現在まで存続していれば大きな寺と思われる程の境内地です。お殿様が他の地に移封するたびにこうした寺は、廃棄されて移っていたのでしょうか。いずれにしても「全久院」の文字を見つめることができて嬉しかったし一つの疑問が解けました。

## 坐禅会に参加して

堀 毅

坐禅会に参加し始め約十年近くになるでしょうか？ 四十八歳まで転勤族で故郷を離れることが多かった私、故郷に戻り茶道に入門し禅との関わりについて知り坐禅を試してみたいと思っていました。

当時、導かれるように新聞で林陽寺のワンコイン坐禅会について記事が掲載されているのを発



見しました。早速、参加し住職に坐り方など初心者でも分かりやすい説明を頂きました。

また、道元禅師の「普勸坐禅儀」の一節を唱和し坐禅の手順を知りました。「夫れ参禅は静室宜しく・善悪を思はず、是非を管すること莫れ・結跏趺坐、或は半跏趺坐。謂く、結跏趺坐は、先ず右の足を以て左の足の腿の上に安じ、左の足を右の腿の上に安ず。」など具体的な手順も教わりました。坐禅は只管、坐るだけなので、いつでもどこでも出来るようにはずだが意思の弱い私には環境がないと出来ません。本堂、設定された時間、一緒に坐る方達が居るから出来るのです。常連、不定期の人、外国人、体験など様々、一緒に坐ることを通じて顔馴染みも、名前、職業、年齢も知らない方が少なくないですが、一人では坐れない、心身のリセットすることも出来ません。

坐禅会を通じ花まつり、お盆、涅槃会など。お釈迦様のことなどを平易な言葉で教えていた

き理解を深めつつ坐り、後半に住職に警策を入れられると悟ったなどとは決して言わないがどこか心が引き締まります。坐禅中、修行が足りず様々な思い、邪心が巡ることも少なくないが自らの心の揺れを気づくのも悪くないと感じています。

コロナ禍以降、茶話会は行われていませんが歓談も楽しみでした。住職からお世辞でもお茶人のように紹介いただき口下手なお話しをしたのも思い出します。お粥やぜんざいをいただきたいりするのもまた楽しい。参加し始めた頃、林陽寺で坐禅の後に「こよみのよぶね」の行燈作りが行われたことがありました。途中で帰るつもりでしたが、作業に熱中して終り近くまで参加、結局「こよみのよぶね」冬至本番まで参加、日比野克彦さん達との打上げ宴会、夜中の三時近くまで参加したこともありました。定年を過ぎ、高齢者の仲間入りですが当面は坐禅会に参加し続けることになりそうです。

## 愛犬「さくら」

ありがとうございます

副住職 峰 雪

愛犬「さくら」が旅立ってから、一年半が経ちました。お寺の看板犬として、十五年。皆さんに可愛がっていただきました。

お寺に来られると「さくら」に会っていかれる方が多く、珍しいおやつをいただいたり、寂しがり屋さん寄り添っていたり、遠方から帰省した家族が散歩に連れて行ってくれたりと、たくさんの方に可愛がっていただきました。さくらも皆さんを覚えていて、車



の音でソワソワし始めるほどでした。

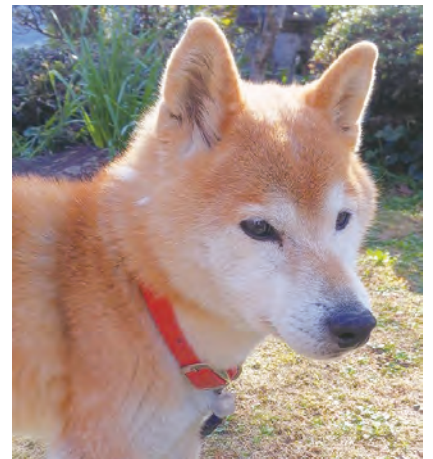
ママシに噛まれて、死線をさまよったこともありましたが、住職の散歩相手として、姪っ子たちの遊び相手として、番犬として、家族の一員でした。

晩年は認知症で、神経質になり噛みついたり吠えたりと恐い思いをされた方もあったと思いますが、話しかけて待てば、必ず寄ってきました。

そして、昨年一月、心肺停止の状態から呼びかけに応じて、三途の川を渡らずに戻ってきました。最後の十二日間は、近くで一緒に悲しいけれども温もりのある穏やかな時間を過ごし見送ることができました。

最期は、遠く離れた家族とつなげたりモートでのお経に送られて旅立ったのです。

さくらの死を通して、家族や人と動物との繋がりについて、改めて考えさせられました。可愛がっているつもりが実は癒やさ



実は自分への慰めであることを教えてくれました。

多くの縁がある中で、私たち家族やお寺へお出でになる方々の元に来たさくら。家族や皆さんとの繋がりをもたらしてくれました。

ありがとうございます、さくら。

合掌

お庫裏のツブヤキ

### Rで始まる活動

ゴミを減らすための3Rの活動に加えて、「断る（リフユズ）」「修理する（リペア）」が加わりました。過剰包装を断ることもゴミの発生をくいとめます。

今年の春の枝垂れ桜は3月12日に開花しました。CBCテレビに取り上げられ、全国ネットで放映されました。QRコードからご視聴をどうぞ。



ドローン撮影での、迫力ある映像となっています。

そこで、やってみました。会議のためのお菓子を買いに行った時に「包まないで、これに入れてください。」と入れ物を出すと、なんと「ありがとうございます。助かります。」と言ってもらえたのです。

ささやかなことですが、少しずつできることをしていきたいと思ったある日の一コマでした。

